

# 研究だより

令和6年9月30日（月）  
東久留米市立第十小学校  
研究部

## 今年度の校内研究について

本校では、昨年までの国語の研究から新たに研究主題を「自らすすんで学ぼうとする児童の育成」としました。副主題を、「～ICT 機器を効果的に活用した指導方法の工夫～」としています。一人一台パソコンが導入され、4年が過ぎようとしています。十小では、どのようにして教育にICTを取り入れ、取り組むべきか研究を重ねていきます。今年度も低学年・中学年・高学年と3つの分科会に分かれ、校内研究を通してICT機器の様々な扱い方に触れ、児童がすすんで学ぶことができるような授業改善をしていきます。

低・中・高学年の3クラスでの研究授業（全教員で参観して協議する）を行います。研究したことを実践する授業はどの学級でも行っています。また、ユニバーサルデザインや「主体的・対話的で深い学び」、多様な学習形態の効果的な活用など、今までの十小で研究してきたことも継続して指導していきます。

### 第1回研究授業 社会「水産業のさかなな地域」 5年2組

ねらい 日本の水産業の自然条件を生かしながら、生産や輸送にかかわる人々の工夫や努力についてまとめることができる。

9月18日（水）に、第1回目の研究授業が5年2組で行われました。高学年では、

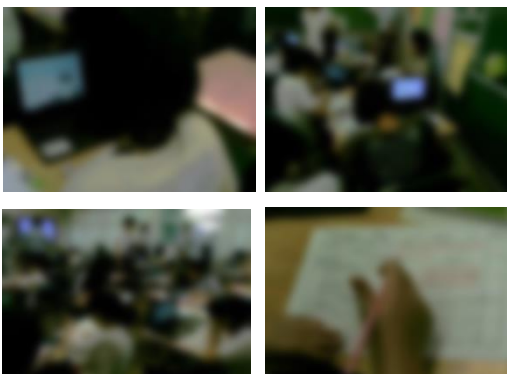
#### ① ICT機器の効果的な学習場面

- (1) 毎時間のまとめをホワイトボードアプリ（Padlet）にまとめる。
- (2) ホワイトボードアプリ（Padlet）にまとめたものを意見の共有、集約に使う。
- (3) クイズサイトを活用し、前時までの振り返りや単元の学習のまとめとして使う。

#### ② ICT機器の効果的な学習方法

- (1) 自分の学習進度に合わせてICT機器を活用したり、教師が作成したプリントを活用したりして自身で学習調整ができるようにする。
- (2) 毎時間、ICT機器を使ってまとめることで、自分の考えを進んで表現しようとする意欲を高める。

を手立てとして、研究を進めてきました。



今回の学習のねらいは、「水産業のまとめ」です。「クロスチャート」という思考ツールを使い、今まで学習した水産業に関わる人々の努力や工夫を一枚の紙にまとめました。その際、Padletにまとめた意見を活用したり、教科書やノートを選んだり、席を自由に動かし友達と協力したりしながら、まとめることができました。

最後に、全体で共有したことを発表し、振り返りを「学び方カード」に書きました。学習の仕方についてふりかえることで主体的に学習することができたかを児童自ら考えることができます。

講師の先生からは、子供たちがICT機器を文房具のように普段から扱っているのがわかる事、タブレットパソコンをまとめに活用するかしないかを自由に選べる学習教材の選択ができるようになっていた事、まとめを書く基準がわかりやすく提示されていたので児童が安心して取り組めた事など、たくさんのお話をいただくことができました。ICT機器は「使わなければいけないもの」ではなく、学習の状況に応じて必要な時に児童が「選択できる」ようにして、活用したいときにある程度のスキル（文字を打つ速さやアプリと使いこなす能力）が備わっているとさらに効果的です。これからもICT機器の活用を通して、児童自らすすんで考えを表現できるよう研究を重ねていきます。